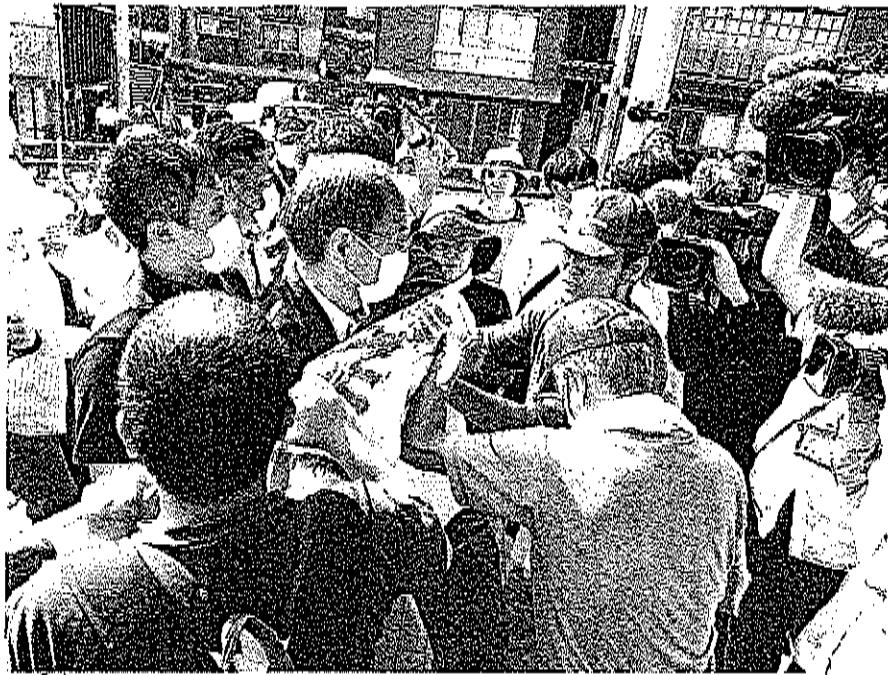


2/3 26 74

山口・上関 原発に続き中間貯蔵施設か！



町役場を訪れた中国電力の幹部（中央）に「お帰りがたい」と抗議する町民ら＝2日、山口県上関町

中国電が町長に調査要請 関電と共同

中国電力は2日、原発から出る使用済み核燃料を一時保管する中間貯蔵施設を山口県上関町に建設するため、同町の西哲夫町長に調査の実施を申し入れました。中国電の所有地で、地下のボーリング調査や文献調査などを関西電力と共同で行います。 ↓関連⑩面

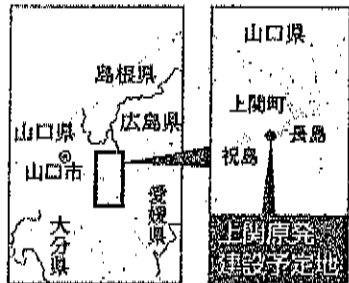
町民「いりません」

中国電は、2011年の東京電力福島第1原発事故を機に準備工事が中断している上関原発の建設用地を一部活用して施設を建設する方針。地盤や地質の調査を通じ、建設が可能か見極めます。

中国電の大瀬戸聡常務執行役員が西町長と町役場で

開会し、調査の意向を伝えました。上関町は原発関連の交付金が大幅に減額されており、今年2月、中国電に対し「地域振興策」を新たに提案するよう求めていました。中国電はこれに対する回答として中間貯蔵施設を提案しました。

原発建設に関し、西町長は「原



中国電力が使用済み核燃料の中間貯蔵施設建設の調査を山口県上関町に申し入れた2日朝、同役場前では中間貯蔵施設の建設に反対する町民ら約40人が「使用済み核燃料おどろわり」と書いた横断幕を掲げ、「いりません」と抗議しました。

面会は非公開で行われ、西哲夫町長は面会后、取材陣に「議会と相談し、近いうちに臨時議会で私の考えを申し上げ、議員の意見を伺って結論を出したい」と述べました。

西町長はその後、反対する町民らと面会。参加者による町民側が「住民に対して説明も資料も何もなく、議会で決まってる決めるのは、住民をなぐさめる」

「原発や使用済み核燃料の問題を町議10人で決めている話ではない」。上関原発の建設予定地の対岸の祝島で、トンキ漁を営む岡本直也さん(38)は「おどろき」をめぐっては小さな「反対を批判しました。祝島の綿村高良さん(41)は「中間貯蔵施設が『地域振興策』になると思っているが、おかしな。約40年間、原発マネーに頼り、町民の生活を壊してこなかったが、このようにいふことになる」と語りました。